

平成 31 年 1 月 5 日

公益社団法人 静岡県作業療法士会 各位

公益社団法人 静岡県作業療法士会
地域活動推進部 担当理事 林 正春
認知症作業療法推進委員 小笠原 紀子

認知症作業療法ステップアップ（生活行為支援指導者）研修のお知らせ（詳細）

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、来週 開催の「平成 30 年度 認知症作業療法ステップアップ（生活行為支援指導者）研修会」詳細のご案内です。

敬具

記

テ ー マ：認知症作業療法生活行為支援指導者研修Ⅱ

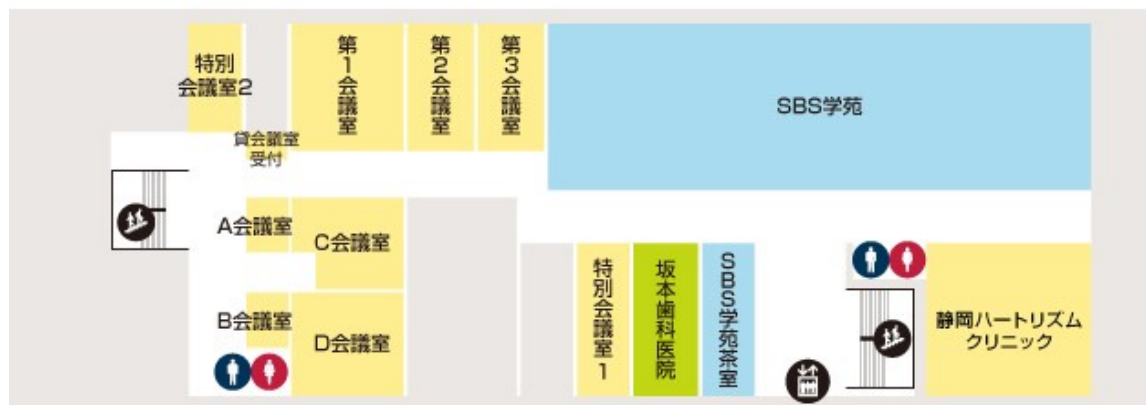
目 的：認知症のひとと家族における生活支援の重要性を理解する。
さらにリハビリテーション専門職の立場から具体的支援方法を理解し、知識並びに技術の向上を図る。

日 時：平成 31 年 1 月 12 日（土） 9 時 30 分～16 時 40 分（受付 9 時 10 分～9 時 25 分）

場 所：静岡パルシェ会議室 7 階第 1 会議室

会場のご案内：研修会の開始時刻にパルシェがオープンしておりません。下記のご案内を参考に JR 静岡駅コンコースより北西のエレベーターをご利用ください。

7 階フロアのご案内



1 階入口のご案内



講師：作業療法士&バリデーションワーカー 佐藤 良枝先生
(公益財団法人積善会 神奈川県認知症疾患医療センター 曾我病院 ,
一般社団法人神奈川県作業療法士会認知症対策委員会担当理事
著書:食べられるようになるスプーンテクニックー認知症のある方の食事介護(日総研出版))

内 容： 9:30~10:50 問題提起と提案「問題設定の問題」
評価の重要性「能力を見出す」「検査を検査で終わらせない」
11:00~12:30 演習「初対面の挨拶をスクリーニングとして活用」
コミュニケーション能力に応じた伝え方の工夫
12:30~13:30 昼食休憩
13:30~14:50 食事介助「適切なスプーン操作は評価の入り口」
関係性の中で観察・評価する(嚥下5相・全身・環境)
デモンストレーション「スプーン操作による食べ方の違い」
15:10~16:30 評価による見極め「障害・能力による代償・誤学習」
若年性認知症について
評価は対応に活用する「遂行機能障害」
帰宅要求「聴いてみなければわからない」
16:30~16:40 質疑応答

講師より (メール連絡の研修会内容を抜粋)

評価の重要性について事例を中心に説明し、食事介助と若年性認知症(結局評価が大事なのですが)にも触れる。その過程において、演習として簡単な評価体験をしてもらう。

「認知症は難しい」と言うような声も多数聞きますが、「検査=評価」と言う誤解があることが根本的な原因だろうと考えています。(評価=検査という誤解があるという現実、認知症ということで困難が表面化していますが、その他の対象疾患についても本質的に非常に危機的な状況とも考えております)

検査をいくらしてもできないことがわかるだけで、認知症のある方のできないことをどれだけ詳しくわかってもしないことができるようにはならない。

一見不合理な現れをしている言動から能力を見出すことが評価の本質と言うことが認識されていないようにも感じています。

このことは食事介助の場面においても同じことが違うカタチで現れているだけだと感じています。
そのあたりを具体的に説明します。

受講要件：静岡県作業療法士会会員 認知症作業療法アップデート研修修了者

参加費：3,000円 ※生涯教育ポイントが2ポイント付与されます。

申し込み方法：1月10日17:00までに下記URLもしくはQRコードより申し込みをお願いいたします。

URL：<https://ssl.form-mailer.jp/fms/b4a012ac595714>

返信メールを送信いたします。メール受信拒否設定をご利用の方は、

「yamazaki@shiz-med-sci.ac.jp」のメールが受信可能となるよう設定変更をお願いします。

(なお、PCからの自動返信のため迷惑メールフォルダーに届いている場合があります)

※欠席はご遠慮ください。やむを得ない場合は、前々日までメールでご連絡ください



以上

<代表連絡先>

静岡医療科学専門学校 作業療法学科 山崎大輔

TEL：053-585-1551(代表) Mail：yamazaki@shiz-med-sci.ac.jp